国立国語研究所学術情報リポジトリ

「昔語り」に現れる文末表現の地理的分布

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002688

「昔語り」に現れる文末表現の地理的分布

日高　水穂
（関西大学）

１．はじめに

昔話や思い出話などを語る「昔語り」の語り方には、個人差を超えた地域的な型があるように思われる。本稿では、『方言文法全国地図』の分布図および昔話資料「方言ももたろう」をもとに、特に「昔語り」の文末表現の地理的分布を見ていきたい。

国立国語研究所編『方言文法全国地図』には、次のような「昔語り」を想定した調査項目の分布図が収録されている。

（1）250～251 図　いたそうだ
［質問文］たとえば、「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ」と言うとき、「鬼がいたそうだ」のところをどのように言いますか。

（2）190・191 図　いたよ
［質問文］昔、自分が子どものころに、この土地にもの知りの人がいました。その人のことを孫に教えてやります。「昔、ここにもの知りの人が……」その次にどのように言いますか。

（1）は、伝聞表現を見ることを目的としたものである。現れる述語の構成を見ると、「動詞＋伝聞形式」とともに、「動詞＋ノダ相当形式＋伝聞形式」というパターンのものが見られる。一方、（2）は、回想表現を見ることを目的としたものである。設定されている場面は、過去の事実を述べることであるが、現れる述語の構成を見ると、「動詞」のみの表現に加えて、「動詞＋伝聞形式」「動詞＋ノダ相当形式」「動詞＋ノダ相当形式＋伝聞形式」というパターンのものが見られる。事実の叙述を想定した（2）で伝聞形式が現れる場合があることがまず興味深い。さらに、（1）（2）ともに、質問文では特に指定をしていないノダ相当形式を含む回答がなされる場合があることも注目される。

同様の観点で、昔話の資料についても分析が可能である。本稿では、「方言ももたろう」を資料とした調査を試みる。「方言ももたろう」とは、1989-1992 年度科学研究費補助金重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」（代表：杉藤美代子）によって、全国約 100 地点で収録された昔話「桃太郎」の冒頭部分の音声データである。これにもとづく既刊の資料のうち、以下のものを総合した 71 地点分のデータを分析する。(a)には、監修者による文字化資料が付されているため、これを使用した。(b)は音声データのみの資料であるため、日高が聞き取り、文字化資料を作成した。

(a)佐藤亮一監修（2007）『ポプラディア情報館　方言』ポプラ社
(b)杉藤美代子監修・著『CD-ROM 方言ももたろう』富士通ＢＳＣ

２.『方言文法全国地図』の分析

２．１　伝聞表現の文末形式

伝聞表現とは、「話者がある事柄を他から聞いて、あるいは、読んで知ったという意を表す表現」（生田目 1982）である。共通語の伝聞表現には、「そうだ」「らしい」という認識系の形式と、「って」「だって」「んだって」「という」「とのことだ」「ということだ」「とか」という引用系の形式がある（日本語記述文法研究会編 2003、宮崎 2005）。

『方言文法全国地図』250～252 図「いたそうだ」の「そうだ」にあたる伝聞形式を（Ⅰ）のように整理し、図 1-1 を作成した（『方言文法全国地図』では、250 図が認識系伝聞形式、251・252 図が引用系伝聞形式を取り上げた図となっている）。なお、（Ⅰ）では、伝聞形式としては周辺的と見られる形式（回答地点数が少なく中心的な意味が伝聞ではない形式）の一部および語形の由来の明確でないものを除いてある。

（Ⅰ）250～252 図「いたそうだ」に現れる伝聞形式

（ａ）認識系伝聞形式

ソー類：soo＋断定辞

ゲ類：ge, ŋe＋断定辞

フー類：huu, hu＋断定辞

ラシー類：rasii, rasi

（ｂ）引用系伝聞形式

・「助詞＋動詞」形

トユー類：to juu, to cju

テユー類：tte juu, di juu

・縮約形

チュー類：cjuu, ccjuu, cju, ccju, zjuu, ttjuu, cuu,ccuu, cu, ccu, zuu, zu ci, cci, cciN, zi, zii,

チョー類：cjoo, ccjoo, cjo, zjoo,tjo, djoo, djo, ccɔɔ, coo, zo

チャ類：cja, ccja, caa, ccaa, zaa, zai, zɛɛ, zɛ

テ類：te, tee, tte, ttee, de, ti, ttii, di, dii, ri

・助詞単独形

ト類：to, too, do, doo, tu, tuu, ttu, du

・ゼロ助詞形（引用助詞が現れない形）

ユー類：juu

次に、「いたそうだ」の動詞の直後に現れるノダ相当形式を、準体助詞部分の形をもとに（Ⅱ）のように分類し、図 1-2 を作成した。なお、図 1-1 では伝聞形式を伴わない回答は除いたが、図 1-2 では伝聞形式を伴わない「動詞＋ノダ相当形式」も地図化してある。ただし、その地点数は 2 地点であり、大多数の回答は伝聞形式が後に続く。

（Ⅱ）250～252 図「いたそうだ」の動詞の直後に現れるノダ相当形式

ノ類：noda, N{da, zja, ja, nja}, Nde, teN, N, ne

ガ類：ga, gada, ŋaja, gaNda
ト類：zzja
ナ類：nada
モノ類：moNda
ɸ類：da

さらに、図 1-2 に見られるノダ相当形式が、どのような伝聞形式とともに現れるのかを見るために、図 1-3 を作成した。

図 1-1 によれば、引用系伝聞形式は、認識系伝聞形式に分断されて東西の両端に分布する。いわゆる周圏分布をなしており、この分布からは、引用系伝聞形式が広がったあとに、中央部で認識系伝聞形式が発生し、広がりつつあることがわかる（伝聞表現の地理的分布の分析については日高(2013 予定)を参照）。

一方、図 1-2 を見ると、伝聞表現を問う質問文においてノダ相当形式を含む表現を回答する地点は、(A)東北中部（宮城・山形）、(B)関東北部（茨城・栃木・群馬・埼玉）、(C)東海（静岡・愛知）、(D)近畿南部（奈良・和歌山）に集中する傾向が見て取れる。

また、図 1-3 によれば、それぞれの地域のノダ相当形式を伴う伝聞形式は、地域(A)は引用系伝聞形式のト類、地域(B)は引用系伝聞形式のチュー類、地域(C)は認識系伝聞形式のゲ類、地域(D)は引用系伝聞形式のト類となっており、地域(C)を除いて引用系伝聞形式がノダ相当形式を伴って現れやすいことがわかる。表 1 は、それぞれの伝聞形式の回答数と、ノダ相当形式を前接する回答数を示し、前者に対する後者の比率を示したものであるが、ここからも、認識系伝聞形式よりも引用系伝聞形式のほうが、ノダ相当形式を伴いやすいという傾向が読み取れる。

表1　ノダ相当形式を伴う伝聞形式の比率

伝聞形式		(a)回答数		(b)ノダ相当形式を前接する回答数		(a)に対する(b)の比率	
認識系伝聞形式	ソー類	315	522	14	26	4.4%	5.0%
	ゲ類	165		11		6.7%	
	フー類	18		1		5.6%	
	ラシー類	24		0		0.0%	
引用系伝聞形式	トユー類	4	397	0	81	0.0%	20.4%
	テユー類	3		0		0.0%	
	チュー類	169		16		9.5%	
	チョー類	23		4		17.4%	
	チャ類	20		1		5.0%	
	テ類	55		14		25.5%	
	ト類	122		46		37.7%	
	ユー類	1		0		0.0%	

ここで特に、地域(D)に注目したい。図 1-1 によれば、近畿地方は全域的に認識系伝聞形式ソー類が優勢な地域であり、地域(D)にもト類とともにソー類が混在して分布する。一方、図 1-2 によれば、地域(D)はノダ相当形式を伴う伝聞表現が盛んな地域である。また一方で、図 1-3 によれば、ノダ相当形式を伴う伝聞表現はト類に限られ、ソー類はノダ相当形式を伴わない。このことを別の角度から見れば、ソー類が優勢な近畿地方の中でこの地域にト類が現れるのは、ト類自体が伝聞形式として優勢を保っているからではなく、「ノダ相当形式＋ト類」が伝聞表現として慣用化しているためだということがわかる。

２．２　回想表現の文末形式

共通語は回想表現の専用の形式を持たないが、東日本方言に見られる述語動詞のタッケ形、東北方言に見られるテアッタ・タッタ形は、回想場面で用いられやすい過去表現である。『方言文法全国地図』190・191 図「いたよ」は、主にこの述語動詞の過去形のバリエーションの地理的分布を見ることを目的に設定されたものであり、動詞部分を地図化した 190 図には、上述したようなタッケ形とテアッタ・タッタ形の分布が鮮明に現れている。

一方、動詞に続く形式の分布を示した 191 図では、終助詞類とともに、ノダ相当形式、伝聞形式が要素の一部として現れている。

190・191 図の略図を作成するにあたり、述語動詞をタ形（テアッタ・タッタ形含む）、タッケ形、テ形に大別し、その後続部分を以下の（Ⅲ）（Ⅳ）（Ⅴ）のように分類・整理した。なお、以下の分類では、語形の由来の明確でないものを除いてある。

（Ⅲ）ノダ相当形式

ノ類：ɴ{da, daa, zja, zjaa, ja}, ᴺdaa, no, ɴ
ガ類：ŋaja, ŋai, ŋa, ga, ŋaɴ, gaɴ
ト類：toja, to, toɴ, (tai)
ア類：aNda
モノ類：monoda, moɴ{da, zja, zjaa, ja, jaa}, moɴ, muɴ, oɴjaa, oɴ, o
φ類：da, daa

（Ⅳ）伝聞形式

ソー類：soo＋断定辞
ゲ類：ge, ŋe＋断定辞
チュー類：cjuu, cu, ccuu, ci, cci, zu, zua, zi
チャ類：cja, ccja
テ類：te, ttee
ト類：to, toi, do, doo, tu

（Ⅴ）終助詞

ナ行系：na, naa, naaa, naadoo, nai, nare, ne, nee, njaa, nɛɛ, nɛa, neja, ni, no, noo, nosaa
ヤ行系：ja, jaa, janoo, jo, joo, jone, jonee, jonoo, ee, enaa, i, ija, ijaa, ine, ino
サ行系：sa, saa, see, sɛ, sja, sjaa

ワ行系：wa, waa, wai, waɛ, wanaa, bai, baai, bana, tai
ザ行系：ze, zejo, zɛa, zo, zoe, zoo, zjo, zjoo, zzo, zja, zjaga
ダ行系：de, dee, dɛ, deba, denaa, denoo, dejoo, do, doo, doojaa, ddoo
ガ行系：ga, ŋa, gana, ŋana, ganaa,, ŋanaa, gane, ganee, ganeja, ganoo
接続助詞系：karanoo, sukenee, kᴇɴ, kᴇɴnoo, kᴇɴnai, kedo, kedonaa, kedomonaa, kitto, kettonjaa, battenee, battᴇɴnee, romonaa, sigajaa

ノダ相当形式のト類に tai を含めているが、主に肥筑方言に現れる終助詞「タイ」は、「助詞トの内在が考えられる」（藤原 1997）とされるものであることから、ここではノダ相当形式と終助詞（ワ行系の wai）が融合した形式として扱った。また、to についてはノダ相当形式と伝聞形式、do については伝聞形式（to の子音が有声化したもの）と終助詞、ga・ŋa についてはノダ相当形式と終助詞のいずれの可能性もあるが、形態的な特徴（東北地方に現れるタッケ形に後接する do は伝聞形式とするなど）や使用地域（東北地方以外に現れる do は終助詞とするなど）から判断して、それぞれを分類した。

述語部分の構成は、①動詞、②ノダ相当形式、③伝聞形式、④終助詞の組み合わせとなる。図 2-1 がすべての組み合わせを示した総合図である。図 2-2 は動詞単独（①）および動詞＋終助詞（①＋②）の表現（事実の叙述）を抽出した図、図 2-3 はノダ相当形式を含む表現（①＋②／①＋②＋③／①＋②＋④／①＋②＋③＋④）を抽出した図、図 2-4 は伝聞形式を含む表現（①＋③／①＋③＋④／①＋②＋③／①＋②＋③＋④）を抽出した図である。また、図 2-5 には伝聞形式の実際の回答語形（（Ⅳ）の分類によるもの）を示した。

（2）に示したように、この項目の質問文は、述語部分を明示しないで話者に文を完成させるという形式を取っており、表現の選択の幅が広い。回想表現の専用形式を持たない地域（主に西日本方言）では、図 2-2 に見るようにテ形の言いさし形（イテ、オッテ、オッテナ等）を回答するものが多く見られるが、これも広い意味での「回想の語り」（昔語り）の型の一つとして、一定の地域に定着したものと見なすことができるだろう。

図 2-3 は、ノダ相当形式の回答パターン（述語の構成）とその分布を示したものであるが、(A)東北北東部（青森東部・岩手北部）、(B)東北中東部（宮城）、(C)東北中西部（山形沿岸部）、(D)関東北部（茨城・栃木・埼玉）、(E)中部日本海側（新潟・富山・石川）、(F)近畿・中国南東部・四国（奈良・和歌山・兵庫・岡山・広島・香川・高知）、(G)九州北西部（佐賀・長崎・熊本）にまとまった分布が見られる。このうち、(A)(B)(C)(E)(G)はモノ類が複数地点で回答されているが、モノ類はこれらの地域で用いられる典型的な準体助詞（『方言文法全国地図』16 図「ここに有るのは何か」、17 図「行くのではないか」に現れる形式）ではないことから、これらの地域のモノ類の表現は、単なるノダ相当形式の表現とは異なり、回想表現に現れやすい意味特性を持っているものと思われる。それぞれの地域で典型的な準体助詞がノダ相当形式に用いられているのは、(B)(D)(F)のノ類、(E)と(F)のうちの高知のガ類、(G)のうちの佐賀・長崎のト類である。

図 2-4 は、伝聞形式の回答パターン（述語の構成）とその分布を示したものであるが、(A)東北中部（岩手・宮城・秋田、山形内陸部）、(B)関東（茨城・栃木・埼玉・千葉・東京）、(C)東海西部（愛知）、(D)九州南東部（熊本内陸部・宮崎・鹿児島）にまとまった分布が見られる。この図 2-4 と図 2-3 の分布域を比較すると、東北中西部（宮城）と関東

北部（茨城・栃木・埼玉）を除いて、両図の分布域が重ならないことがわかる。また、東北北西部（青森西部）、東北南部から中部内陸部・東海東部にかけて（福島・群馬・山梨・長野・岐阜・静岡）、中国北西部（鳥取・島根・山口）には、ノダ相当形式と伝聞形式のいずれも現れない地域が広がっている。

表２に「回答の語り」におけるノダ相当形式と伝聞形式の現れ方のパターンとその該当地域をまとめた。

表2 「回想の語り」のノダ相当形式（図 2-3）と伝聞形式（図 2-4）の現れ方

ノダ相当形式	伝聞形式	該当地域
○	○	東北中東部／関東北部
○	×	東北北東部／東北中西部／中部日本海側／近畿・中国南東部・四国／九州北西部
×	○	東北中部／東海西部／九州南東部
×	×	東北北西部／東北南部・中部内陸部・東海東部／中国北西部

２．３　伝聞表現と回想表現の文末形式の比較

ここで、伝聞表現の質問文に現れた伝聞形式（図 1-1）と回想表現の質問文に現れた伝聞形式（図 2-5）を比較してみる。図 2-5 の(A)東北中部（岩手・宮城・秋田、山形内陸部）、(B)関東（茨城・栃木・埼玉・千葉・東京）、(D)九州南東部（熊本内陸部・宮崎・鹿児島）の地域については、図 1-1 と図 2-5 で現れる伝聞形式はほぼ一致している。一方、(C)東海西部（愛知）の地域については、図 1-1 ではゲ類が回答されているのに対し、図 2-5 ではテ類が回答されている。ただし、地域(C)では以下の例のような、引用助詞に由来する終助詞「テ」がさかんに用いられる。

(3)　「なに言っとる。ほれは、きんのうのことだ。きょう覚えたことだて。」
（「そろりそろりと来るわいな」『読みがたり愛知のむかし話』）

(4)　ほいでも、寝床ん中ぁ入ったって、どだい寝るどころじゃあないて。
（「六部とシジュウカラ」『読みがたり愛知のむかし話』）

伝聞の専用形式としてゲ類を使用する地域(C)でその形式が現れないことからすると、図 2-5 に現れた地域(C)のテ類は、伝聞の機能は薄いものと見るべきだろう。そのように考えると、回想表現で伝聞形式を回答する傾向は、東北・関東・九州南東部という日本列島の周辺部に見られるものであるということになる。

次に、伝聞表現の質問文に現れたノダ相当形式（図 1-2）と回想表現の質問文に現れたノダ相当形式（図 2-3）を比較してみる。両者を総合した図 3 を見ると、両方の質問文に対してノダ相当形式を回答する地点は多くないことがわかる。その中で、東北中西部（宮城）と関東北部（茨城・栃木・群馬・埼玉）は伝聞・回想ともノダ相当形式を回答する地点が多く、また、いずれかの質問文に対してノダ相当表現を回答する地点も集中している。伝聞・回想とも「昔語り」にノダ相当形式が多用される地域だと言える。

西日本では、近畿・中国・四国の瀬戸内海寄りの地域（奈良・和歌山・兵庫南部・岡山・広島・香川・愛媛）に分布が集中する傾向がある。この地域のノダ相当表現は、伝聞・回想のいずれかに偏って現れるものではないようであり、「昔語り」に任意で現れる形式であると見られる。

九州では、北西部の佐賀・長崎にト類、熊本にモノ類の表現がさかんであるが、これらは回想表現に現れ、伝聞表現には現れない。「昔語り」のうち、事実の叙述において、これらの形式が多用されるものと思われる。

３.「方言ももたろう」の分析

「方言ももたろう」の調査における、もとの共通語文は、以下のようなものである。

［共通語］　①むかしむかしあるところに、おじいさんとおばあさんがありました。②おじいさんは山へしばかりに、おばあさんは川へせんたくに行きました。③おばあさんがせんたくをしていると、川上から大きなももがどんぶらこどんぶらこと流れてきました。④おばあさんはそのももをひろって家へ帰りました。⑤おばあさんがももを切ろうとするとももがふたつにわれて、なかから大きな男の子が生まれました。⑥おじいさんとおばあさんはその子に桃太郎という名前をつけました。

「方言ももたろう」では、上記の共通語文の 6 つの文を各地方言に訳出している。6 つの文の述語部分（①ありました、②行きました、③流れてきました、④帰りました、⑤生まれました、⑥つけました）に着目し、ノダ相当形式と伝聞形式の出現パターンを表３にまとめた。また、これにもとづき、図 4、図 5 を作成した。

図 4 のノダ相当表現のバリエーションの分布は、関東に φ 類、四国南西部（愛媛・高知）にガ類、九州北西部にト類とモノ類が現れており、おおむね図 3 の分布に一致している。

一方、図 5 の伝聞形式のバリエーションの分布を見ると、認識系伝聞形式のうちソー類の使用はきわめて不活発で、図 1-1 でソー類が現れていた地域にはト類が現れている。認識系伝聞形式のうちゲ類は、図 1-1 の分布に一致して現れている。引用系伝聞形式では、ト類が全国的に優勢であるが、チュー類も図 1-1 の分布域の範囲内で現れている。その中で、東北北東部（青森東部・岩手）は、図 1-1 ではチュー類が集中して分布しているが、図 5 ではト類が優勢である。

以上のことから、昔話の語りにおいては、関東および近畿・中国・四国・九州にノダ相当形式を多用する方言があること、また、伝聞形式では全国的にト類が多用されること、その中で関東ではチュー類、ゲ類使用地域ではゲ類が優勢であることがわかる。

４．おわりに

本稿では、『方言文法全国地図』の分布図と、昔話資料「方言ももたろう」をもとに、「昔語り」の文末表現の地理的分布を見てきた。文末表現のうち、特に注目したのは、ノダ相当表現と伝聞表現である。

ここで、本稿でいずれの資料においても、共通に見られる地域傾向をまとめておく。

（Ⅵ）「昔語り」の文末表現の地域傾向

1. 関東北部では、ノダ相当形式（ノ類・φ 類）・伝聞形式（チュー類）をともに用いる傾向がある。
2. 近畿・中国南東部・四国では、ノダ相当形式（ノ類）を多用する傾向がある。
3. 九州北西部では、ノダ相当形式（モノ類）を多用する傾向がある。
4. 東北北部・中部・中国北西部・九州南東部では、ノダ相当形式を用いない傾向がある。

ここで調査対象とした資料は、同時期に統一の調査法により収集された「整った」資料である。それによって、「昔語り」の文末表現として、ノダ相当形式と伝聞形式が多用されることに着目するに到った。今後は、実際に語られた自然談話資料、昔話の語りの資料を見ることによって、上記の地域傾向について検証していきたい。

参考文献

生田目弥寿(1982)「伝聞の表現」『日本語教育事典』大修館書店，205.
日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法④モダリティ』くろしお出版.
日高水穂(2013 予定)「複合辞「という」の文法化の地域差」藤田保幸編『形式語研究論集』和泉書院.
藤原与一(1997)『日本語方言辞書（下巻）―昭和・平成の生活語―』東京堂出版.
宮崎和人(2005)「伝聞」『新版日本語教育事典』大修館書店，145-146.

資料

国立国語研究所編(1999)『方言文法全国地図』第 4 集（190・191 図）大蔵省印刷局.
国立国語研究所編(2002)『方言文法全国地図』第 5 集（250～252 図）財務省印刷局.
佐藤亮一監修(2007)『ポプラディア情報館　方言』ポプラ社
杉藤美代子監修・著『CD-ROM 方言ももたろう』富士通ＢＳＣ
愛知のむかし話の会編(2005)『読みがたり愛知のむかし話』日本標準

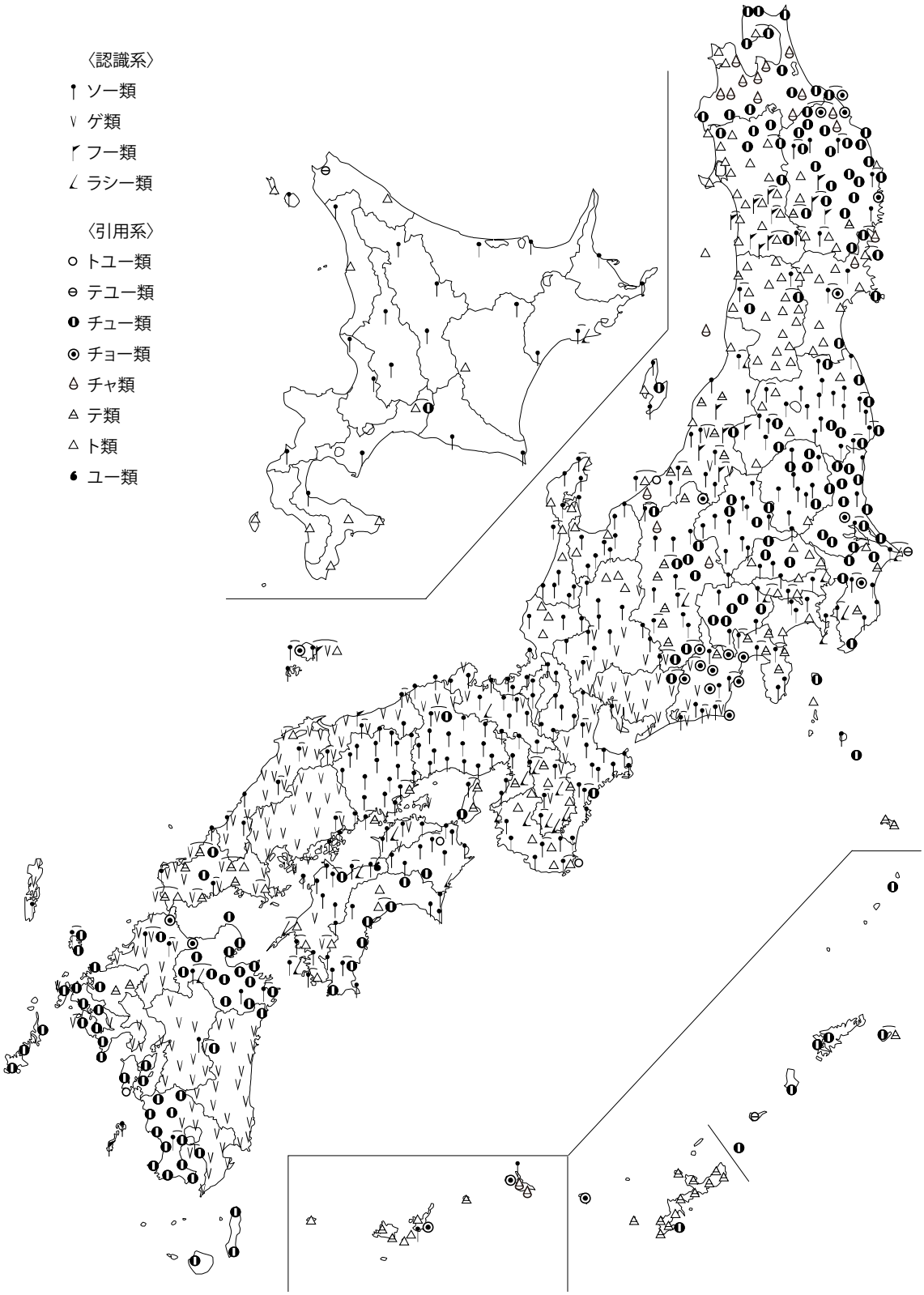


図 1-1 「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ」《伝聞形式》
（『方言文法全国地図』250～252 図より作図）



図 1-2 「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ」《ノダ相当形式》
（『方言文法全国地図』250～252 図より作図）

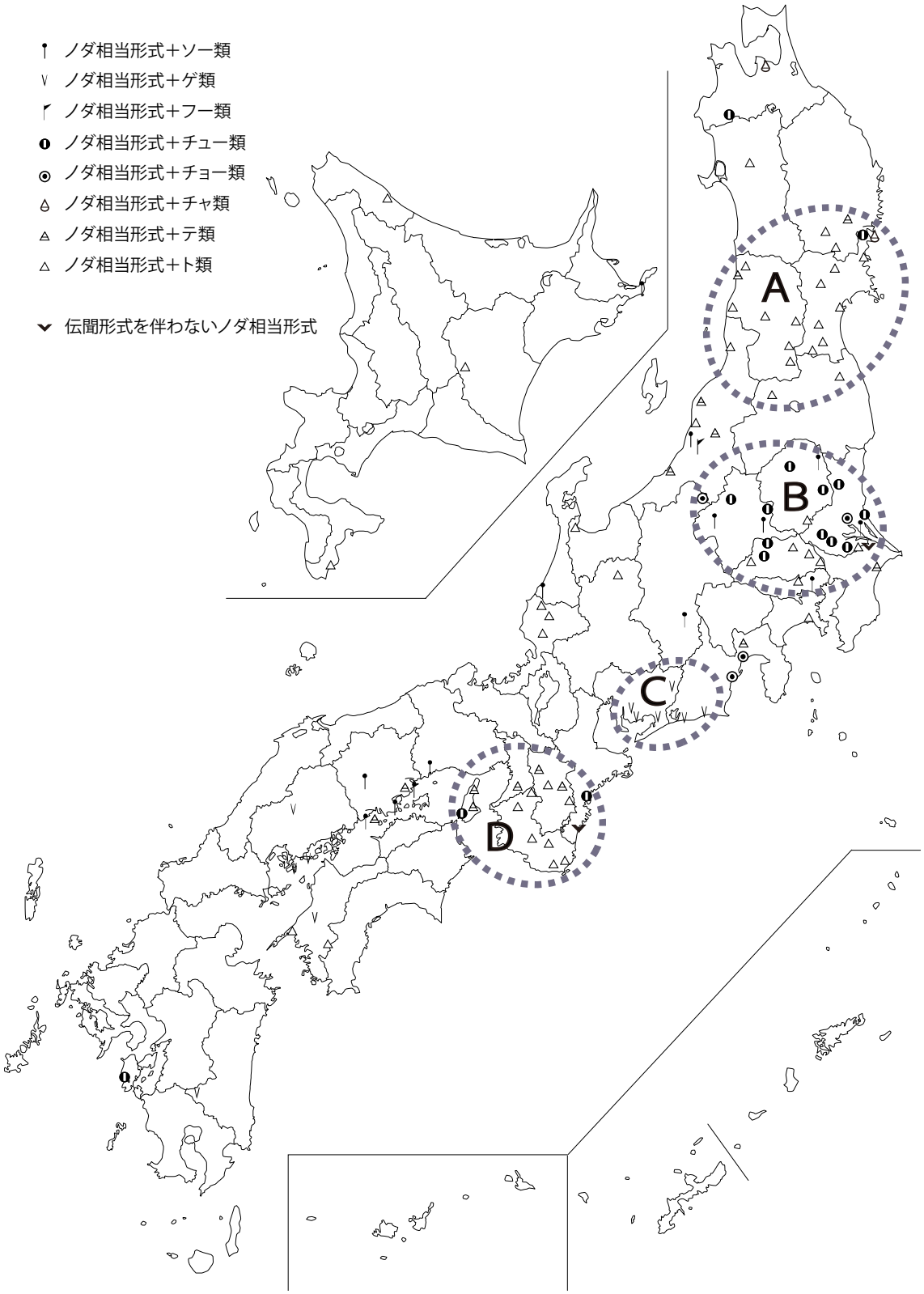


図 1-3 「昔、昔、あの山に鬼がいたそうだ」《ノダ相当形式＋伝聞形式》
（『方言文法全国地図』250～252 図より作図）

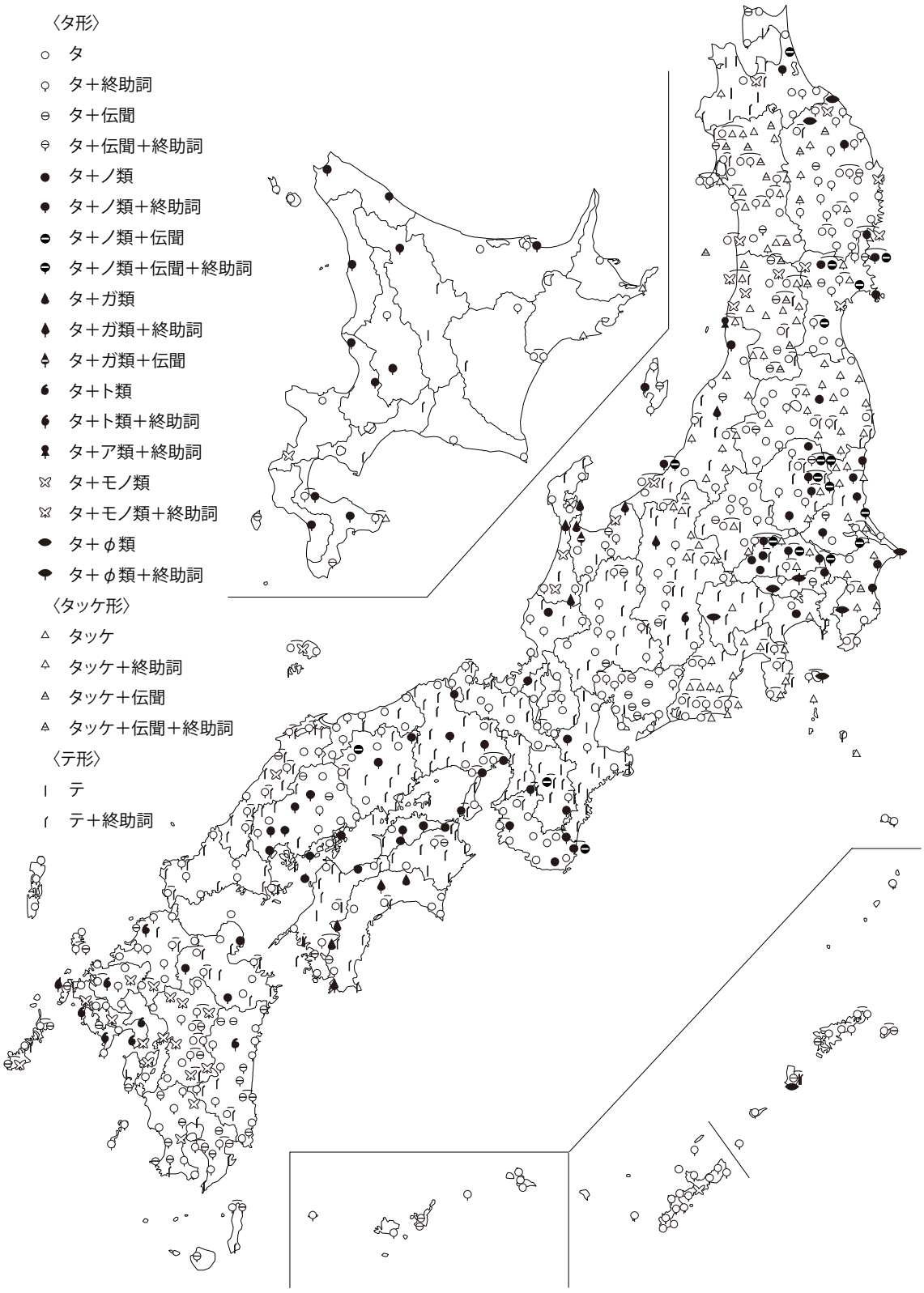


図 2-1 「昔、ここにもの知りの人がいたよ」《総合》
（『方言文法全国地図』191・192 図より作図）

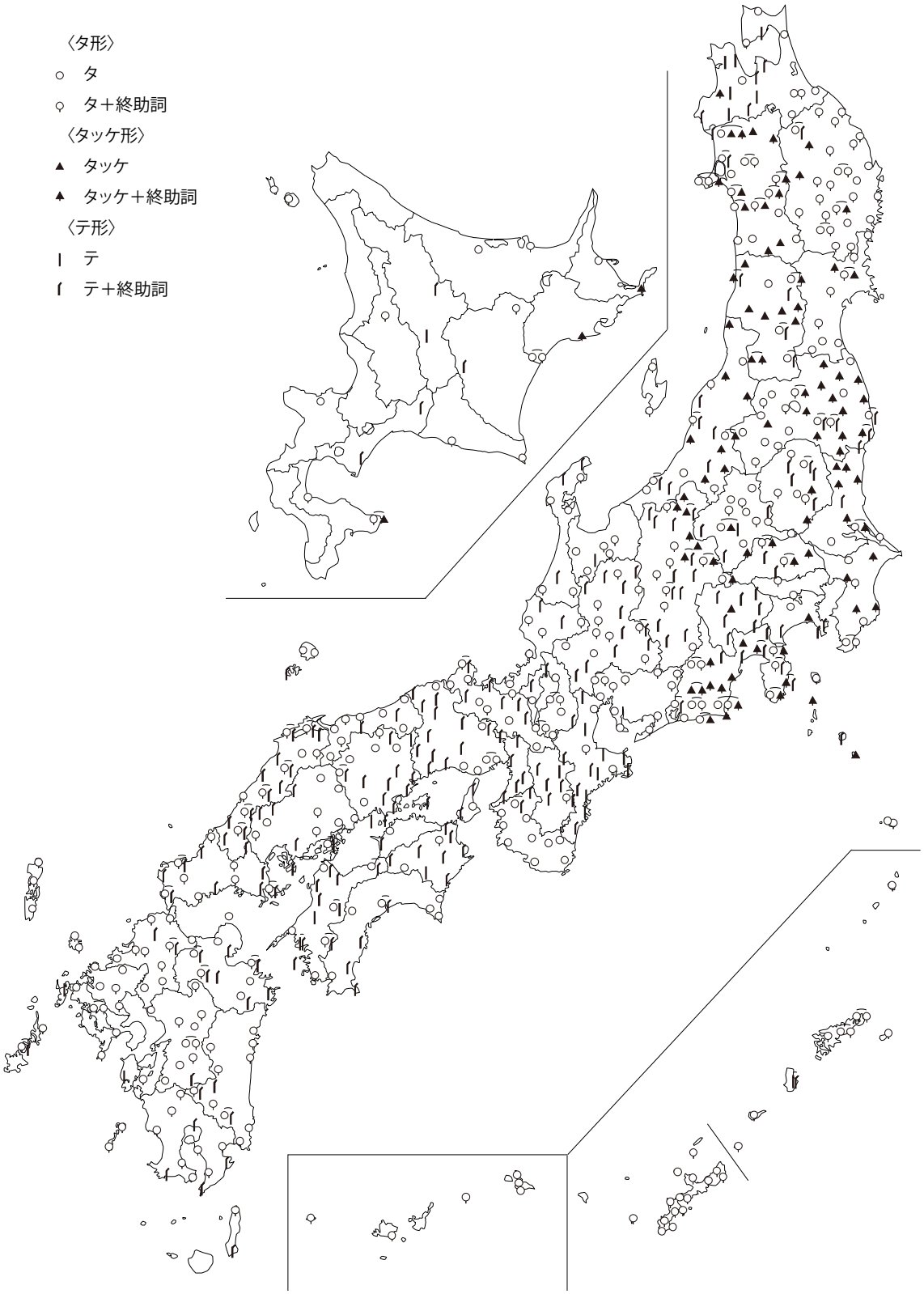


図 2-2 「昔、ここにもの知りの人がいたよ」《事実の叙述》
（『方言文法全国地図』191・192 図より作図）

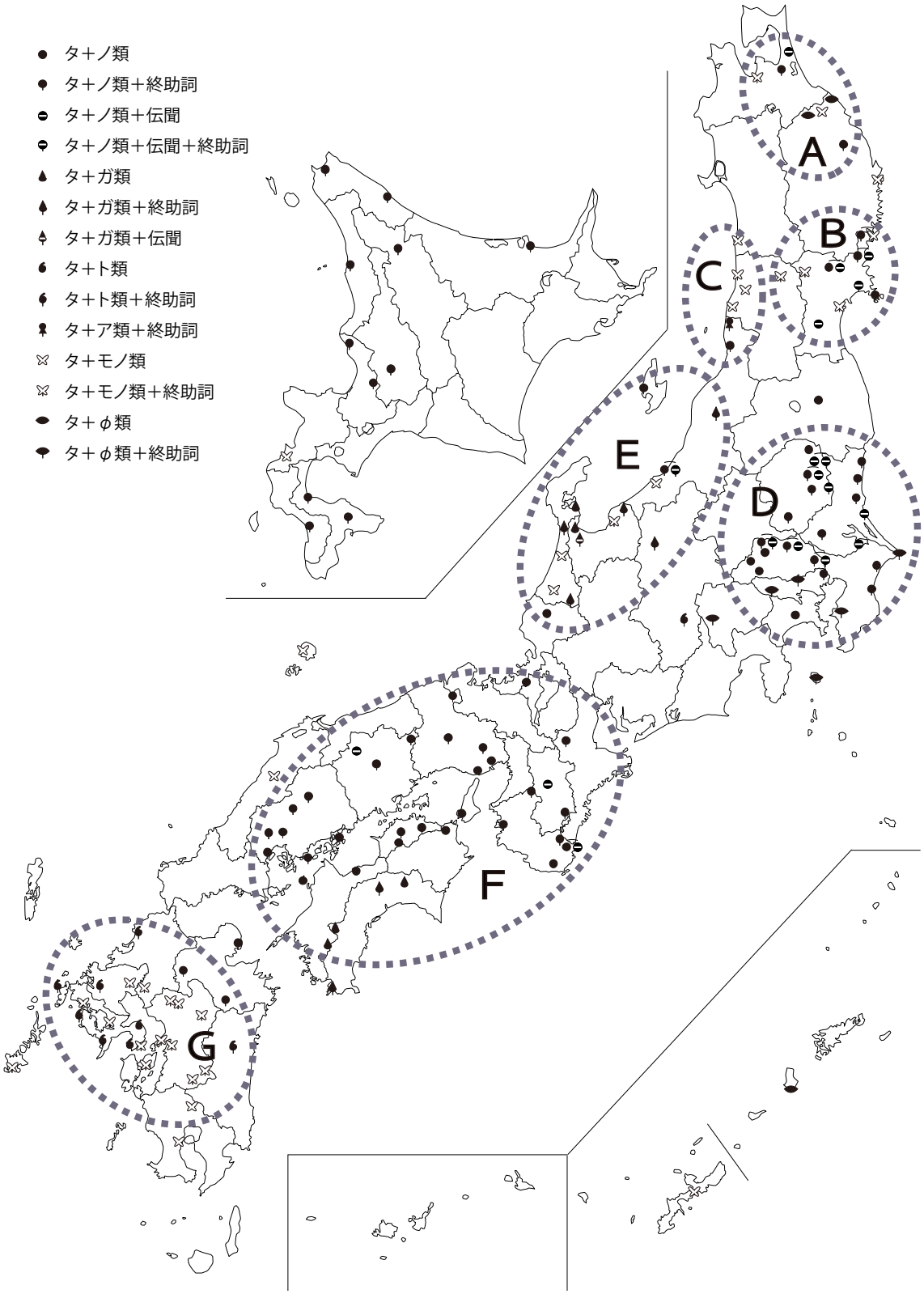


図 2-3 「昔、ここにもの知りの人がいたよ」《ノダ相当形式》
（『方言文法全国地図』191・192 図より作図）

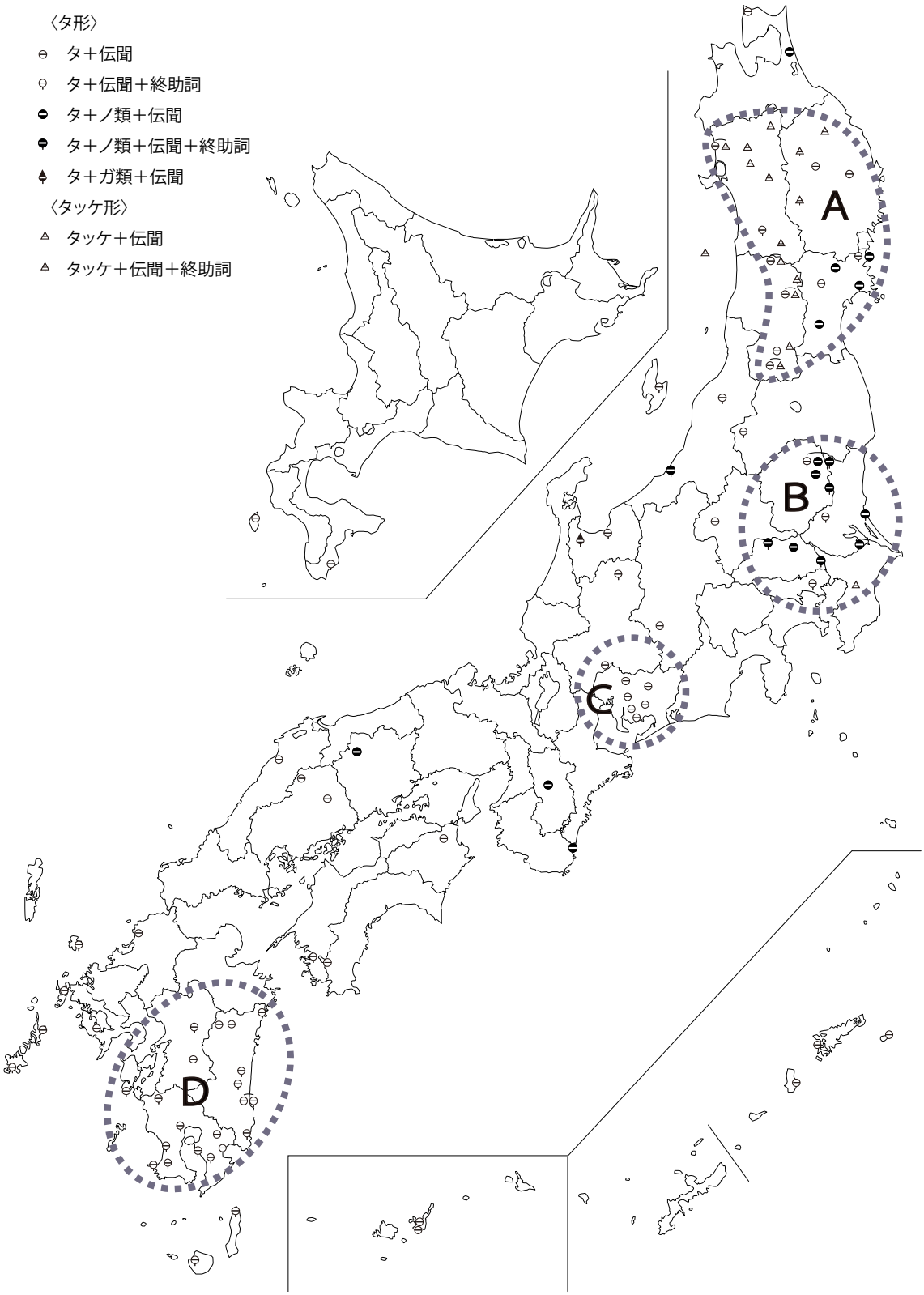


図 2-4 「昔、ここにもの知りの人がいたよ」《伝聞形式を含む述語の構成》
（『方言文法全国地図』191・192 図より作図）

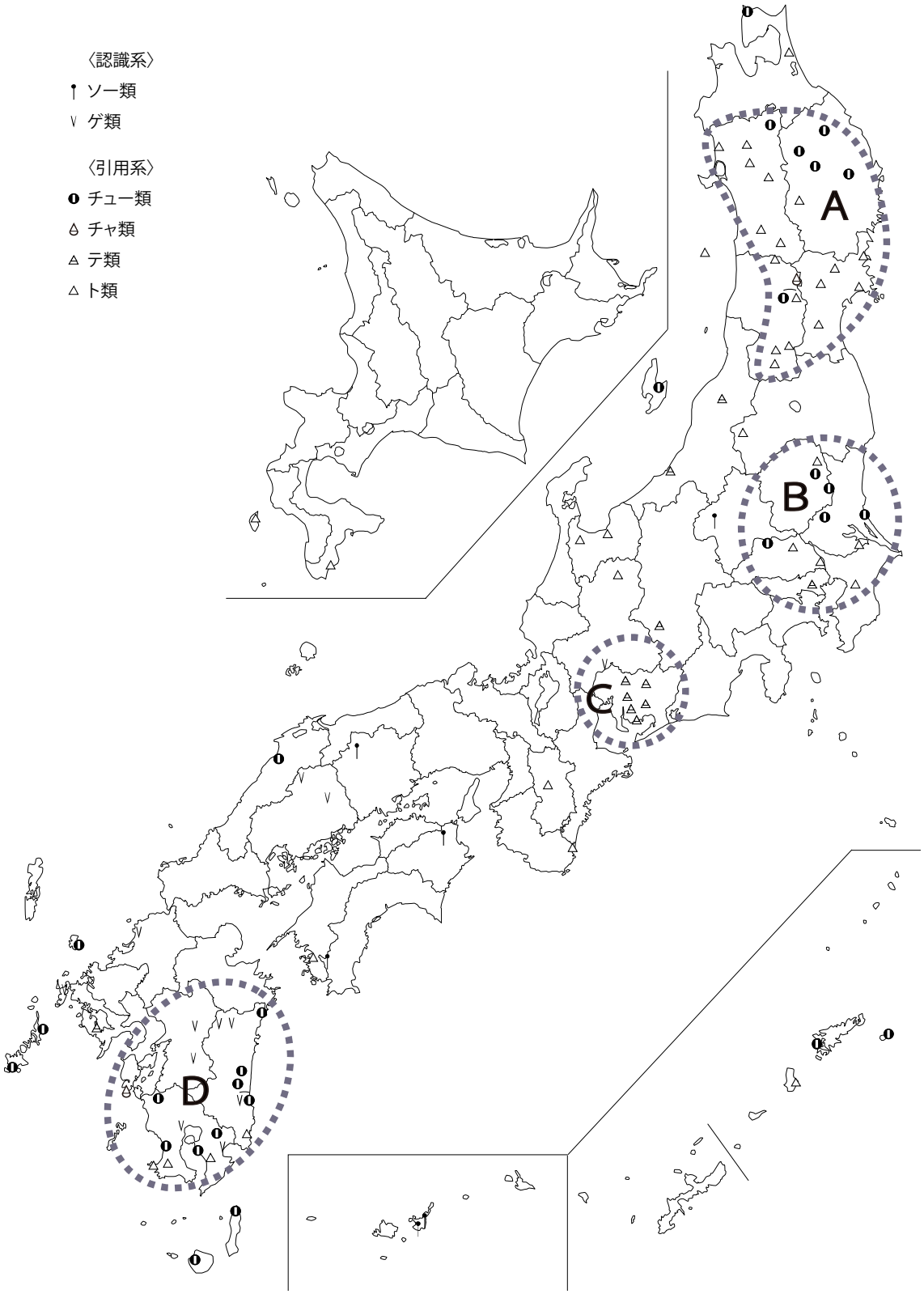


図 2-5 「昔、ここにもの知りの人がいたよ」《伝聞形式の語形》
（『方言文法全国地図』191・192 図より作図）

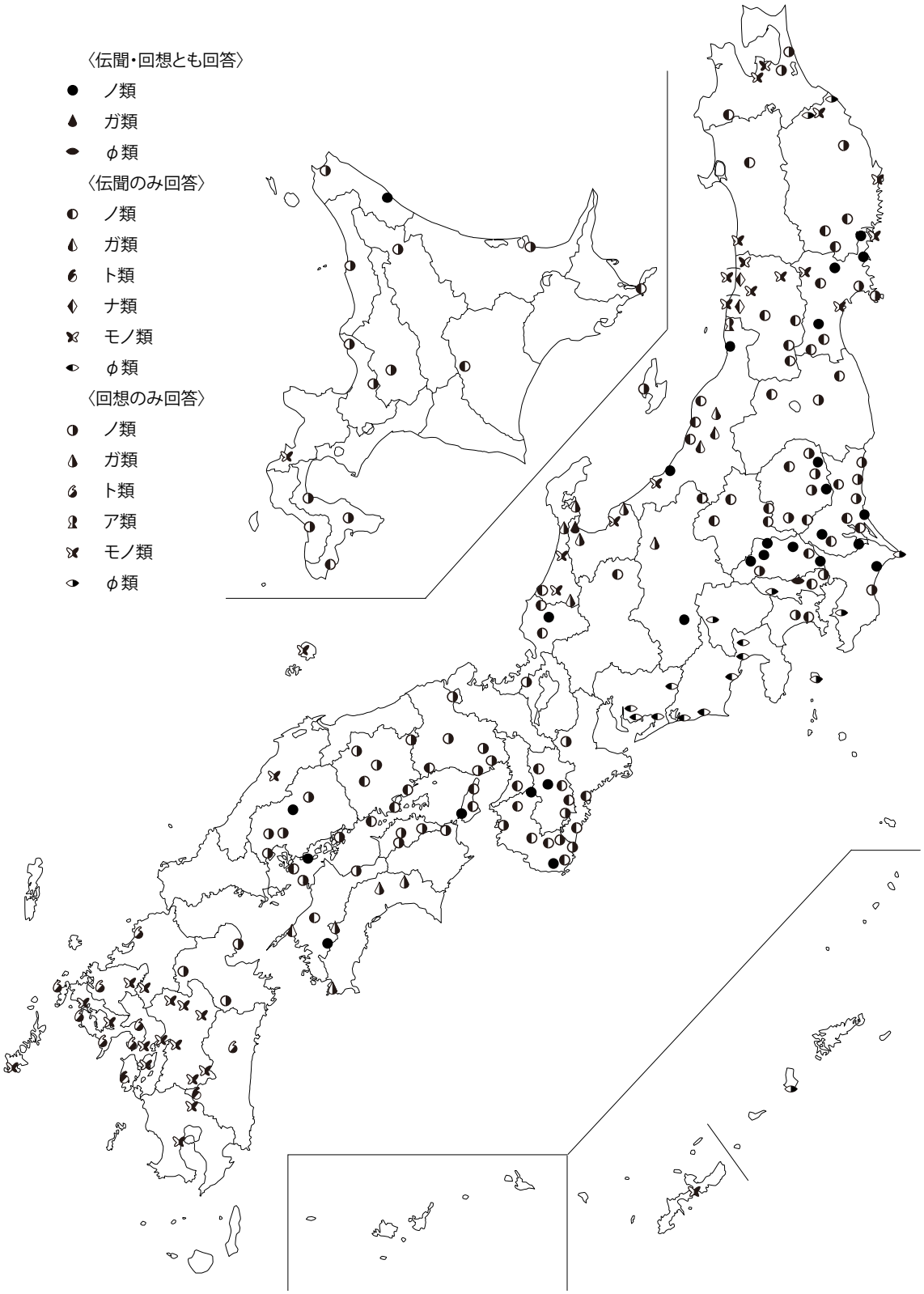
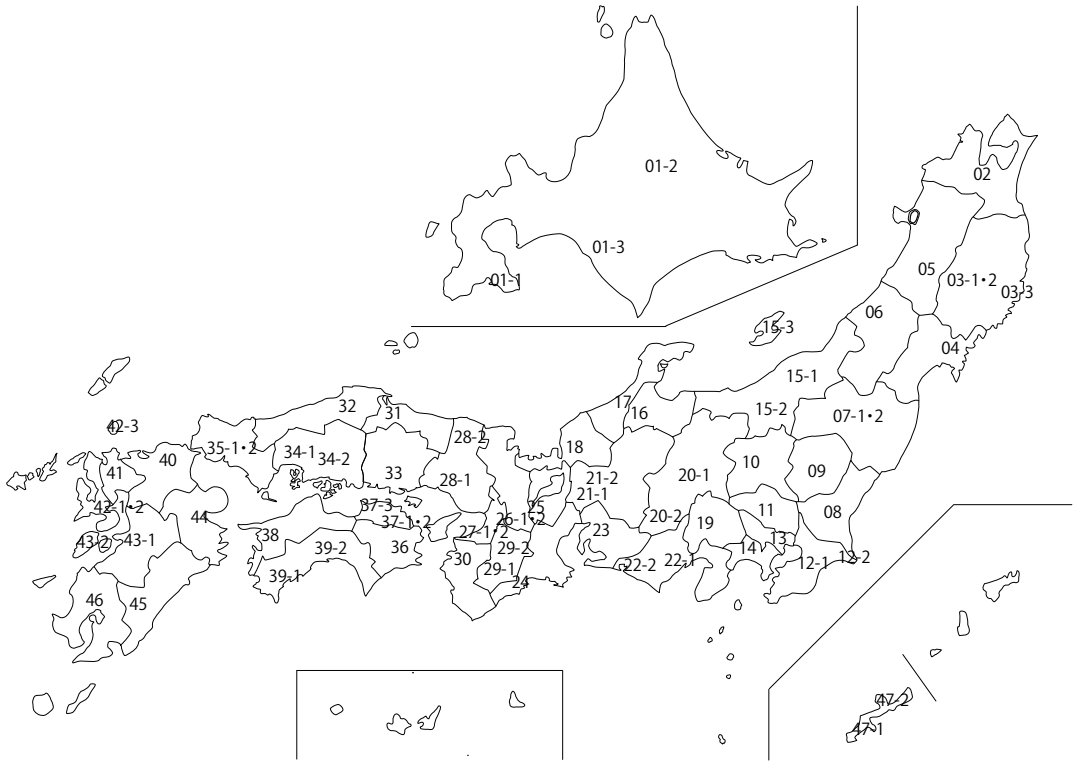


図 3　伝聞・回想表現に現れるノダ相当形式（図 1-2・2-3 の総合図）
（『方言文法全国地図』191・192・250～252 図より作図）

「方言ももたろう」収録地点



01-1　北海道函館市
01-2　北海道名寄市
01-3　北海道静内郡静内町
02　青森県五所川原市
03-1・2　岩手県花巻市
03-3　岩手県宮古市
04　宮城県気仙沼市
05　秋田県横手市
06　山形県東田川郡三川町
07-1・2　福島県大沼郡会津美里町
08　茨城県水戸市
09　栃木県さくら市
10　群馬県吾妻郡中之条町
11　埼玉県秩父市
12-1　千葉県市原市
12-2　千葉県銚子市
13　東京都港区
14　神奈川県秦野市
15-1　新潟県三条市
15-2　新潟県十日町市
15-3　新潟県佐渡郡真野町
16　富山県南砺市
17　石川県金沢市
18　福井県越前市
19　山梨県南アルプス市
20-1　長野県松本市
20-2　長野県下伊那郡天龍村
21-1　岐阜県不破郡垂井町
21-2　岐阜県揖斐郡藤橋村
22-1　静岡県静岡市
22-2　静岡県浜松市
23　愛知県名古屋市
24　三重県尾鷲市
25　滋賀県大津市
26-1・2　京都府京都市
27-1・2　大阪府大阪市
28-1　兵庫県姫路市
28-2　兵庫県出石郡出石町
29-1　奈良県吉野郡十津川村
29-2　奈良県生駒郡斑鳩町
30　和歌山県和歌山市
31　鳥取県米子市
32　島根県松江市
33　岡山県岡山市
34-1　広島県広島市
34-2　広島県賀茂郡大和町
35-1・2　山口県山口市
36　徳島県阿南市
37-1・2　香川県高松市
37-3　香川県観音寺市
38　愛媛県西予市
39-1　高知県四万十市
39-2　高知県高知市
40　福岡県福岡市中央区
41　佐賀県佐賀市
42-1・2　長崎県長崎市
42-3　長崎県壱岐郡郷ノ浦町
43-1　熊本県熊本市
43-2　熊本県天草郡苓北町
44　大分県大分市
45　宮崎県都城市
46　鹿児島県鹿児島市
47-1　沖縄県那覇市
47-2　沖縄県国頭郡今帰仁村

佐藤亮一監修（2007）『ポプラディア情報館　方言』ポプラ社

杉藤美代子監修・著『CD-ROM 方言ももたろう』富士通ＢＳＣ

表3 「方言ももたろう」のノダ相当形式および伝聞形式の出現パターン

	地点	①ありました			②行きました			③流れてきました			④帰りました			⑤生まれました			⑥つけました		
		ノダ	伝聞	使用形式	ノダ	伝聞	使用形式	ノダ	伝聞	使用形式	ノダ	伝聞	使用形式	ノダ	伝聞	使用形式	ノダ	伝聞	使用形式
01-1	北海道函館市	ノ	○	イダンデスト		○	イッタドサ		○	ナガレデキマシタドサ			モッテカエリマシタ			ウマレテキマシタ		○	ツケマシダド
01-2	北海道名寄市	ノ	◆	イタンダソーダヨ	ノ	○	イッタンダト	ノ	◆	ナガレテキタンダソーダ			モッテカエッテ＝			ウマレマシタ			ツケマシタ
01-3	北海道静内郡静内町			オリマシタ			ユキマシタ			ナガレテキマシタ			カエリマシタ			ウマレマシタ			ツケマシタ
02	青森県五所川原市		○	アッテイダド		○	イッダド		○	ナガレデキダド		○	モッテキタド		○	ウマレデキダド		◎	ツケダッズ
03-1	岩手県花巻市		○	イダッタド		○	イッタド		○	ナガレデキダド		○	ケーッタド		○	ウマレテキタド		○	ツケタド
03-2	岩手県花巻市		○	アッタドサ		○	イッタド		○	ナガレデキタド		○	カエッタド		○	ウマレダド		○	ツケタドサ
03-3	岩手県宮古市		○	イダード		○	イッタード		○	ナガレデキタード		○	モッテカエッタード		○	ウマレダード		○	ツケダード
04	宮城県気仙沼市		○	アッタドッサー		○	イッタドッサー		○	ナガレデキタドッサ		○	ケーッタドッサー		○	ウマレダドッサー		○	ツケダドッサー
05	秋田県横手市		○	イデッタド		○	イッタド		○	ナガレデキタド		○	カエッテキタド		○	ウマレダド		○	ツケタド
06	山形県東田川郡三川町		○	イッダケドヤー		○	イッダッケドヤー		○	ナガレデキタッケドヤー		○	ケタッケドヤ		○	ンマレテキタッケドヤー		○	ツケダドヤ
07-1	福島県大沼郡会津美里町		○	イダッダド		○	イッタト		○	ナガレテキタド		○	ケッテキタド		○	ウマッチャド		◆	ツケタソーナ
07-2	福島県大沼郡会津美里町	φ	○	イタダド	φ	○	イッタダド	φ	○	ナガッチェキタダド	φ	○	カエッタダド	φ	○	ウマッタダド	φ	○	ツケタダド
08	茨城県水戸市	ノ	○	スンデイタンダド	ノ	○	イッタンダド	ノ	○	ナガレテキタンダド	ノ	○	カエッタンダド	ノ	○	ンマレタンダド	ノ	○	ツケタンダド
09	栃木県さくら市	ノ	○	イダンダド	ノ	○	イッタンダド	ノ	○	ナガレテキタンダド	ノ	○	ケーッタンダド	ノ	○	ウマレダンダド	ノ	○	ツケタンダド
10	群馬県吾妻郡中之条町	φ	◎	アッタダッチューヨ	φ	◎	イッタダッチューヨ	φ	◎	ナガレテキタダッチュー	φ	◎	ケーッタダッチュー	φ	◎	ウマレテキタダッチューヨ	φ	◎	ツケタダッチューヨ
11	埼玉県秩父市		○	アッタトサ		○	イッタトサ	ノ	○	ナガレテキタンダト		○	ケーッタト		◎	デキタッツーヨ	ノ	○	ツケタンダト
12-1	千葉県市原市	φ		イダダ	φ		イッタダ	φ		ナガレテキタダ			ケーッタラ＝	φ		デデキタダ	φ	○	ツケタダッテヨ
12-2	千葉県銚子市		◎	イタッチュヨ		◎	イッタチュヨ		◎	ナガレテキタッチュヨ		◎	モッテキタッチュヨ		◎	ウマレタッチュヨ		◎	ツケタッチュヨ
13	東京都港区			アリマシタ			ユキマシタ			ナガレテキマシタ			カエリマシタ			ウマレマシタ			ツケマシタ
14	神奈川県秦野市			イマシタ			イキマシタ			ナガレテキマシタ			ケーリマシタ	ノ	○	ウマレタンダトヨ	ノ	○	ツケタンダトヨ
15-1	新潟県三条市		○	イラッタッテヤ		○	イガッタテヤ		○	ナガレテキタッテヤ		○	ケーラッタッテヤ		○	ウマレテキタッテヤ		○	ツケラッタッテヤ
15-2	新潟県十日町市		○	アッタト		○	イッタト		○	ナガレテキタト		○	カエッタト			デマシタ		○	ツケタトサ
15-3	新潟県佐渡郡真野町		○	アッタト		○	イッタト		○	ナガレテキタト		○	カエッタト			デマシタ		○	ツケタトサ
16	富山県南砺市		○	イヤッタトヨ		○	イキャッタトヨ		○	ナガレテキタトヨ		○	カエリャッタトヨ		○	ンマレタトヨ		○	ツキャッタトヨ
17	石川県金沢市			アリマシタ			ユギマシタ			ナガレテキマシタ			カエリマシタ			ウマレマシタ			ツケマシタ
18	福井県越前市	ノ	○	イタンニャト	ノ	○	イッタンニャト	ノ	○	ナガレテキタンニャト	ノ	○	モッテカエッタンニャト	ノ	○	ウマレタンニャト	ノ	○	ツケタンニャト
19	山梨県南アルプス市			イテナ＝			イッタ			ナガレテキオッタ			ケーッタ	φ		デテキタダ		◎	ツケタッチューヨ
20-1	長野県松本市		○	イタッテサー		○	イッタッテサー		○	ナガレテキタッテサ		○	ケーッタッテサ		○	ウマレタッテサ		○	ツケタッテサ
20-2	長野県下伊那郡天龍村			アッテヨ＝			イッテヨ＝			ナガレテキテヨ＝			カエッテヨ＝			ウマレテヨ＝	ノ		ツケタノヨ
21-1	岐阜県不破郡垂井町			ゴザッタ	ノ		イカシタンジャ	ノ		ナガレテキヨッタンジャ			カエッテゴザッタ			ウマレテッタ			ツケヤシタ
21-2	岐阜県揖斐郡藤橋村		○	オッタト		○	イッタト		○	ナガレテキタト		○	モドッタト		○	ウマレタト		○	ツケタト
22-1	静岡県静岡市			イテ＝			イッタ			ナガレテキタ			キャーッタ			ウマレタ			ツケタ
22-2	静岡県浜松市	φ		アッタダネ	φ		イッタダネ			ナガレテキテナ＝	φ		カエッタダヨ			ウマレテサ＝	φ		ツケタダ
23	愛知県名古屋市			ゴザッテ＝		★	イカシタゲナ			ナガレテキテ＝		★	キャーラシタゲナ		★	ウマレタゲナ		★	ツケサシタゲナ
24	三重県尾鷲市		◎	オッタトユーワイ		◎	イッタトユーワイ	ノ	◎	ナガレテキタンジャッチューワイ		◆	カエッタソージャイ	ノ	◎	ウマレテキタンジャッチューワイ	ノ	◎	ツケタンジャトユーワイ
25	滋賀県大津市	ノ	○	イテハッタンヤテ	ノ	○	イカハッタンヤテ	ノ	○	ナガレテキヨッタンヤッテ	ノ	○	モッテカエラハッタンヤテ	ノ	○	ウマレタンヤテ	ノ	○	ツケハリマシタンヤッテ
26-1	京都府京都市	ノ		イヤハッタンエ	ノ		ユカハッタンエ	ノ		ナガレテキタンエ	ノ		モッテカエラハッタン	ノ		ウマレタンヤ	ノ		ツケハッタンエ
26-2	京都府京都市			イハリマシタヨ	ノ		イッタノ			ナガレテキマシタ	ノ		カエッタン	ノ		ウマレタンヤデ	ノ		ツケタンヤ
27-1	大阪府大阪市	ノ	○	オッテント	ノ	○	イッテント	ノ	○	ナガレテキテント	ノ	○	カエッテント	ノ	○	ウマレテント	ノ	○	ツケテント
27-2	大阪府大阪市	ノ		スンデハッテン	ノ		イカハッテン	ノ		ナガレテキテン	ノ		カエラハッテン	ノ		デテキテン	ノ		ツケハッテン
28-1	兵庫県姫路市	ノ	○	オッタンヤト	ノ	○	イッテント	ノ	○	ナガレテキタンヤト	ノ	○	モッテカエリマシタンヤト	ノ	○	ウマレテキマシタンヤト	ノ	○	ツケタンヤト
28-2	兵庫県出石郡出石町	ノ		スンドンナッタンダガナ	ノ		イキナッタンダガナ	ノ		ナガレテキタンダガナ	ノ		モッテカエリナッタンダガナ	ノ		ウマレタンダガナ	ノ		ツケナッタンダゼ
29-1	奈良県吉野郡十津川村	ノ	○	オッタンヤト	ノ	○	イッタンヤト	ノ	○	ナガレテキタンヤト	ノ		インダンヤ	ノ	○	ウマレタンヤト	ノ	○	ツケタンヤト
29-2	奈良県生駒郡斑鳩町			イタ			イッタ			ナガレテキタ			カエッタ			ウマレタ			ツケタ
30	和歌山県和歌山市	ノ		イタンヨ			イキマシタ	ノ		ナガレテキタンヨ	ノ		カエッタンヨ	ノ		ウマレタンヨ	ノ		ツケタンヤ
31	鳥取県米子市		★	オーナッタゲナ	φ	○	イキナッタダトヤ	φ	★	ナガレテキタダゲナ	φ	○	カエリナッタダト	φ	○	ウマレテキタダトヤ	φ	○	ツケタダトヤ
32	島根県松江市		★	オッタゲナ		★	イキタゲナ		★	ナガレテキタゲナ		★	モドッタゲナ		★	ウマレタゲナ		★	ツケタゲナ
33	岡山県岡山市			イマシタ			イキマシタ			ナガレテキマシタ			イニマシタ			ウマレマシタ			ツケマシタ
34-1	広島県広島市	ノ	★	オッタンジャゲナ	ノ	★	イッタンジャゲナ	ノ	★	ナガレテキタンジャゲナ	ノ	★	カエッタンジャゲナ	ノ	★	ウマレタンジャゲナ	ノ	★	ツケタンジャゲナ
34-2	広島県賀茂郡大和町			オリンサッタ			イッテンガンシタ	ノ	○	ナガレテキタンジャト	ノ	★	モドッタンジャゲナ	ノ	★	ウマレタンジャゲナ	ノ	★	ツケタンジャゲナ
35-1	山口県山口市		○	オッタトイノ		○	イッタトイノ		○	ナガレテキタトイノ		○	モッテインダトイノ		○	ウマレタトイノ		○	ツケタトイノ
35-2	山口県山口市			オッタイノー		○	イッチャッタトイノー			ナガレテキヨッタ			インジャッタ			ウマレチャッタ		◆	ツケチャッタソーナ
36	徳島県阿南市	ノ	○	アッタンヤト	ノ	○	イッタンヤト	ノ	○	ナガレテキタンヤト	ノ	○	カエッタンヤト	ノ	○	ウマレタンヤト	ノ	○	ツケタンヤト
37-1	香川県高松市	ノ		オッタンヤ	ノ		イッキョッタンヤ	ノ		ナガレテキタンヤ	ノ		モッテインダンヤ	ノ		ウマレタンヤ	ノ		ツケタンヤ
37-2	香川県高松市	ノ	○	オッタンヤト	ノ	○	イッタンヤト	ノ	○	ナガレテキタンヤト	ノ	○	モッテカエッタンヤト	ノ	○	ウマレテキタンヤト	ノ	○	ツケタンヤト
37-3	香川県観音寺市	ノ		オッタンヨ	ノ		イッタンヤ	ノ		ナガレテキタンヨ			モッテキタ	ノ		ウマレタンヨ	ノ		ツケタンヨ
38	愛媛県西予市			アッチノン＝	ガ	○	イッタガト	ガ	○	ナガレチキタガト	ガ	○	インダガト	ガ	○	デチキタガト	ガ	○	ツケタガト
39-1	高知県四万十市		◎	オッタツーワヨ		◎	イッタツーワヨ		◎	ナガレテキタツーワヨ		◎	インダツーワヨ		◎	ウマレタツーワヨ		◆	ツケタソーナ
39-2	高知県高知市		○	オッタト		○	イッタト			ナガレテキヨッテノー＝		○	モッテカエッテキタト		○	デテキタト	ガ	○	ツケタガヤト
40	福岡県福岡市		★	オンシャッタゲナ		★	イキンシャッタゲナ		★	ナガレテキタゲナ		★	カエンシャッタゲナ		★	ウマレテキンシャッタゲナ		★	ツケンシャッタゲナ
41	佐賀県佐賀市			オンサッタ			イキンサッタ	モノ		ナガレテキタモンノマイ			カエンサッタ			ウマレマシタ			ツケンサッタ
42-1	長崎県長崎市	ト	★	オッタトゲナ	ト		イッタトサ	ト		ナガレテキタトサ	ト		カエッタッサ	ト		ウマレタトサ	ト		ツケタッサ
42-2	長崎県長崎市	モノ	★	オンナッタゲナモンノー		★	イッタゲナ	モノ	★	ナガレテキタゲナモンノー		★	カエンナッタゲナ		★	ウマレタゲナ		★	ツケンナッタゲナ
42-3	長崎県壱岐郡郷ノ浦町	ト	◎	オランタツタイ	ト	◎	イタツタイ	ト	◎	ナガレッキタッタイ	ト	◎	モドッタッタイ	ト	◎	ウマレタッタイ	ト	◎	ツケタツタイ
43-1	熊本県熊本市	モノ		オランタモンナ		◎	イカシタユーテナ=	モノ		ナガレテキタモンダケン=	モノ		モッテカエラシタモンナ	モノ		ウマレテキタモンナ	ト	○	ツケラシタテタイ
43-2	熊本県天草郡苓北町	モノ	◎	オラシタチューモンネ	モノ		イカシタモンネ	モノ		ナガレテキタモンネ	モノ		モドラシタモンネ	モノ		ウマレテキタモンネ	モノ	◎	ツケラシタチューモンネ
44	大分県大分市	ノ	○	オッタント	ノ	○	イッタント		◎	ナガレチキタッチ	ノ	○	モチカエッタント			デチキチナ=	ノ	○	ツケタント
45	宮崎県都城市		★	オイヤッタゲナ		★	イキヤッタゲナ		★	ナガレッキタゲナ		★	モドイヤッタゲナ		★	ウマレッキタゲナ		★	ツケヤッタゲナ
46	鹿児島県鹿児島市		◎	オイヤッタチワイ		◎	イッキャッタチワイ			ナガレッキモシタ			モドイヤッタ			ンマレモシタ			ツケモシタ
47-1	沖縄県那覇市			メンシェービータン			イチャビタン			ナガリティチャービタン			イチャビタン			ンマリティチャービタン			チキサビタン
47-2	沖縄県国頭郡今帰仁村			ウイタンネ			チャイタンネ			ナガレッチャンネ			ケータンネ			デタンネ			チケタンネ

【凡例】

ノダ相当形式　ノ:ノ・ン・ンデス・ンダ・ンジャ・ンヤ・ンニャ・テン　ガ:ガ・ガヤ　ト:ト・ッ(サ)・タイ　モノ:モン・モンダ　φ:ダ

伝聞形式　◆:ソー類(ソーダ・ソージャ・ソーナ)　★:ゲ類(ゲナ)　◎:トユー・チュー・ユー類(トユー・チュー・チュ・チ・ツー・ツ・ッ(タイ)・ズ・ユー)　○:ト・テ類(ト・ド・テ)

※末尾の＝は接続形(非言い切り形)であることを示す。

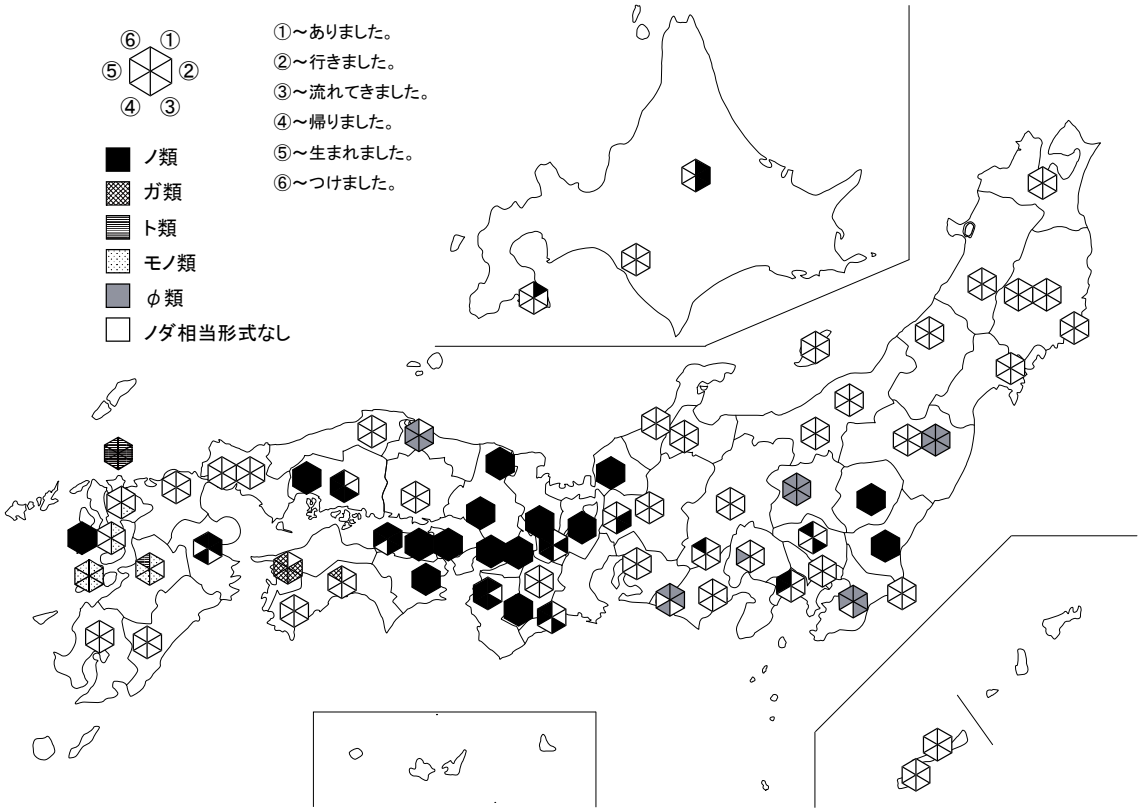


図 4 「方言ももたろう」のノダ相当形式の出現パターン

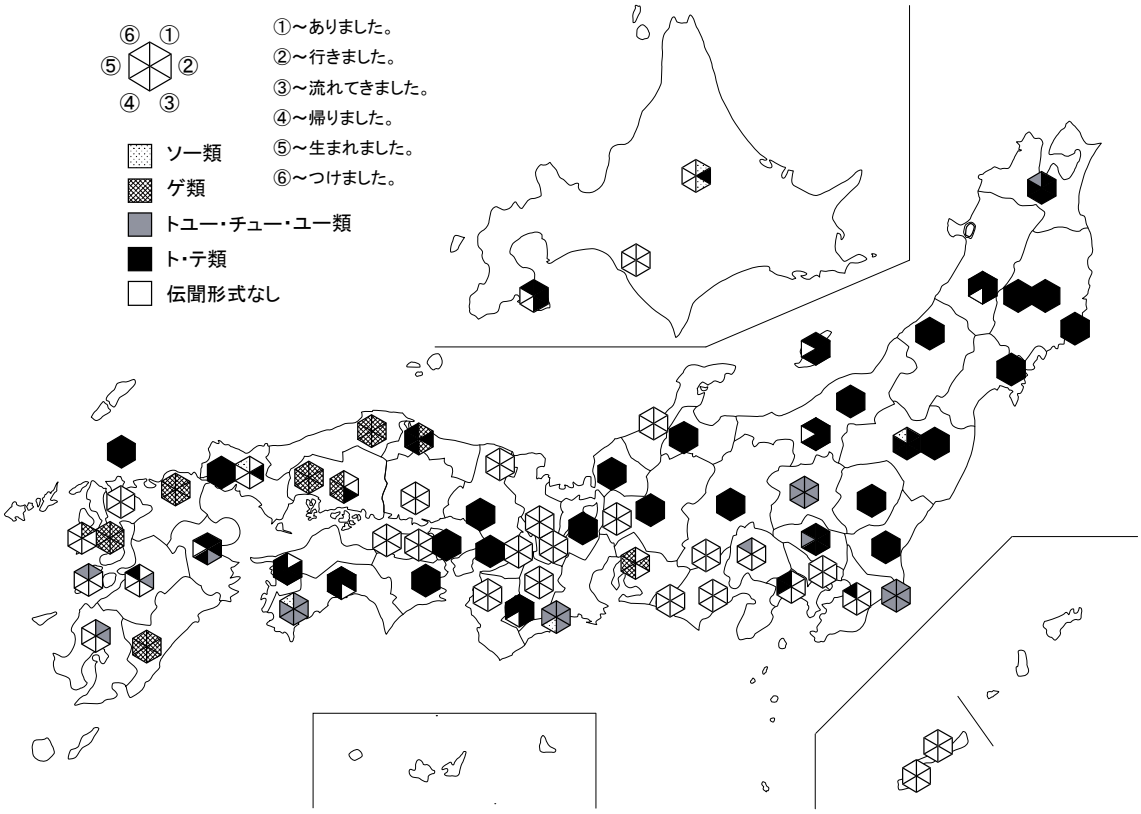


図 5 「方言ももたろう」の伝聞形式の出現パターン